

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871400200		
法人名	医療法人 竹林院		
事業所名	グループホーム かぐや姫		
所在地	西予市野村町11号95番地1 (電話) 0894-72-3802		
管理者	小玉 弘美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 31 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~40,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	7 名	要介護 2	3 名
要介護 3	7 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	1 名
年齢	平均 86 歳	最低 69 歳	最高 98 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったりとした居室の窓から、すぐ近くに山並みが眺められ、心が落ち着く環境にある。母体が医療法人であり、すぐ隣に病院、居宅介護支援事業所、デイサービスセンターが併設されているため、健康管理面において十分な支援が確保されている。利用者は趣味の活動を楽しみながら、お互いができることを提供し合いながら、自立した生活を送っている。利用者同士にも増して職員間の関係は良好で連携が図れており、利用者と一緒にゆったりと落ち着いた生活を共有している。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回評価を受けての課題として、相談窓口の具体的な表示、利用者の思いや意向の把握、日々の様子の記録の仕方について工夫すること等が挙げられており、現在も様々な場で検討を続けている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

前回、全項目について自己評価をしてみて、それぞれ職員の立場によって取り組みの難しい項目もあったので、今回はより充実した取り組みとなるよう、自身が考えていきたい項目を分担し、主任が全体をまとめている。職員は、振り返りと気づきがあり、サービスの質の向上につながると考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの行事予定やホームの生活状況の報告等を行っている。利用者が多数参加しており、利用者自身の生の声を聞くことができ改善に役立っている。また、運営推進会議を通じて地域において認知症の理解が深まってきている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

直接的に運営に反映する様な内容の意見等は出ていないが、運営推進会議に多くの利用者と家族に参加してもらい、意見を述べる場が広がったことで、少しずつ利用者の目線で状況が見えるようになってきている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

小中学生との交流や、ホームの納涼祭に地域の方を招いて交流しているが、地域へ溶け込んで地域住民の一員としての交流ができているとまでは言えない。自治会などに参加して、地域の回覧板や広報誌を通して情報交換を行うなど、積極的に地域と交流していけるよう工夫を続けることを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 かぐや姫

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 小玉弘美

評価完了日 平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) かぐや姫独自の理念もあり、各階の理念も作りあげている。 (外部評価) 法人としての理念があり、その理念を基に、ユニットごとに具体的な介護目標を掲げている。地域密着型ということに着目し、「在宅とホームのつながりを大切にする」という文言を入れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 勉強会、毎朝の申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図っている。 (外部評価) 日常の様々な場面で常に理念に照らし合わせて行動している。月1回の研修会やユニット会議の際にも理念について話し合いを持っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には入居時に説明をしている。地域の方には広報誌を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物に出かけた時、あいさつを交わしたり、話をしたりしている。なかには花や野菜を届けてもらう人もいる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け、参加してもらっている。 (外部評価) 小中学生との交流や、ホームの納涼祭に地域の方を招いて交流しているが、地域へ溶け込んで地域の一員としての交流は多いとは言えない。	※	自治会などに参加し、地域の回覧板や広報誌を通して情報交換を行うなど、積極的に地域と交流していけるよう工夫を続けることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生の受入を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価結果は今後のケアサービスの質につなげていけるように、全職員で意識統一を図り努力している。 (外部評価) 職員によって取り組みが難しい項目もあるので、考えていきたい項目に分担して取り組み、主任が中心になってまとめている。職員は自己評価することが振り返りと気づきにつながり、ホーム全体のサービスの質の向上になると考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。 (外部評価) メンバーは利用者や家族、ホームの関係者がほとんどで、外部からの参加は少ないが、利用者自身の声を聞くことができ改善に役立っている。内容については、ホームの行事予定や生活状況の報告が多い。	※	地域に密着した生活を送ることの大切さを考慮し、地域で様々な活動を担っている自治会長、民生委員、ボランティア団体の方などを会議のメンバーに加えるなどして、意見・情報を交換していく等の工夫を期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターとの情報交換は行っている。今後、共同関係ができるように担当者とうう機会を増やしていきたい。 (外部評価) 市担当者とは顔馴染みの関係をつくっている。また、介護相談員の訪問を受けており、連携して常にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表現に心掛けている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 併設のデイや居宅の職員に相談されている場合もあり、出た意見は日々のケアに生かしている。介護相談員(年3回程度)が相談にのってもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的な報告をしている。電話や手紙や、面会に来られた時にも報告している。 <hr/> (外部評価) ホームでの暮らしぶりは、季刊のホーム便りで知らせている。介護計画の見直し時や来訪時には健康状態などを伝えるようにしている。	※	利用者一人ひとりの暮らしぶり、健康状態などに加えて、出入りの多少にかかわらず金銭管理状況を毎月の経費請求時等に報告しておくことが望まれる。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見は話し合いを持ち反映させている。 <hr/> (外部評価) 来訪時や運営推進会議を通して家族の意見を取り上げ、改善につなげるようにしているが、外部の相談窓口等は明示されていない。	※	家族が苦情相談等を伝えやすいよう、ホーム内の窓口として具体的に氏名などを明示するとともに、外部の相談窓口についても電話番号等の連絡先を含めて明示し、説明しておくことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者は状況に応じた対応ができるように通常のシフトには入ってない。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職は少なく、移動はよく検討した上で行っている。馴染みの職員によるケアを心掛けている。 (外部評価) 認知症の方にとって、馴染みの関係づくりが大切でありまた難しいことも十分承知しており、異動や離職者は最小限に抑えられている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設外研修に参加している。できるだけ多くの職員が受講できるようにしている。 (外部評価) 研修会の情報を回覧して周知し、希望に合わせてシフトを組むなど積極的に研修受講を支援している。受講した内容については、月1回の内部研修会で報告し、職員全体で共有できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 西予市グループホーム連絡会、南予グループホーム連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。		
			(外部評価) 県、南予地区、市グループホーム連絡会等の研修会に参加している。グループ内での交流実習もしているが、職員が直接同業者と交流する機会はない。	※	地区内の同業者でネットワークをつくり、管理者の交流だけでなく職員も積極的に交流を深め、互いにケアの質の向上につなげていく工夫が求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するように努めている。月1回、又は必要に応じ職員代表との合同会議を実施している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員個々の情報を把握し、向上心を持って働けるような職場作りに努めている。業務とは別に委員会を設定。目的別の活動を行い、向上心を育てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接等の状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受けとめようと努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に見学に来てもらう事から始める。生活の様子を見てもらったり、併設のデイサービスも生かしている。 (外部評価) 見学してもらってホームの雰囲気に馴染んでもらったり、併設しているデイサービスを利用しながら入居につないだり、自宅を訪問して生活ぶりや生活歴等を知ることによって利用者の気持ちに寄り添う工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多くもち、声掛けに配慮している。 (外部評価) 農作業、家事など日々の生活の中で教えてもらうことがたくさんある。一生懸命働いて歳を重ねてきた中から生まれてくる心づかいにふれ、気持ちを支えられることがある。車いすの移動を手伝うなど、利用者同士の支えあいも見られる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族、本人の思いを見極め、外出、外泊で家族と一緒に過ごす時間がとれるように努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りなど、継続した支援を行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 声掛けしたり、職員が間に入りながら、うまく関係が築けるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院の場合は、続けて様子伺いに行っている。他の施設に行かれた方には、時々、顔を見に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族の協力を得ている。 (外部評価) 入居時のアセスメントや、日々の生活の中で利用者の思いや意向を把握している。	※	個々の職員が日々の生活の中で感じ取っている様々な気づきを記録して積み重ね、職員全員が共有できる仕組みをつくることが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常生活の中で、これまでの暮らしを知る事ができる。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できる事、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。 (外部評価) 介護計画は担当職員とユニットリーダーが中心になって作成し、ユニット会議で他の職員の気づきを加え、家族にも意見を聞いて、確認してもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態変化に合わせて、サービスの見直しを行っている。 (外部評価) 1か月ごとに支援記録を作成しながら、3か月、6か月と期間に応じて見直しをしている。変更時には申し送りノートで職員に伝えている。	※	利用者の介護記録（日誌）や申し送りノートに、職員が思い思いに記録しているが、職員全員が介護計画を意識して、具体的に毎日の生活の中で評価できるような記録の仕方を工夫することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) デイサービスの利用、併設されている病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。 (外部評価) 医療機関の受診、リハビリテーション等を利用できるよう積極的に支援している。併設しているデイサービスセンターを有効に活用し、自由に参加できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 公民館、図書館等、利用する機会はある。時折、民生委員が様子伺いに来られ、話相手になって頂いている。月1回音楽療法のボランティアが来られ、音楽好きの方が楽しんでいる。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今までは、必要なかったが、今後、活用できるようにしていきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今は協働していないが、今後、解決できない問題ができた時には協働し、支援に努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。家族が希望するかかりつけの病院になっている。必要なら、訪問診察に来てもらっている。 (外部評価) 運営法人である医療機関が利用者のかかりつけ医と連携を取り、健康管理に努めている。かかりつけ医を受診する際は日常の状態がわかる記録を持参してホームの職員が通院支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 心療内科受診時に相談にのってもらい、指示、助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職がない為、併設病院の看護師との連携がとれる体制が確保されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、頻繁に見舞いに行き、病院側と情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今のところ、重度者や終末期の方をサービス対象者とはしていない。利用者、家族が安心してサービス利用ができるように、日頃の健康管理や急変時の対応ができるように話し合っている。 (外部評価) 看取りに関する指針をつくり、家族には医師である法人代表が説明している。現在対象者はいないが、必要時にはパート職員や看護師の勤務体制の補充、確保などの話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 併設病院との医療連携体制は整っている。今後、重度化や終末期に向けた支援について検討、準備をする考えはある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 話し合いを十分に持ち、本人の不安を取り除くように努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声の掛け方等、配慮した対応ができるようにしている。 (外部評価) 記録の保管、職員の守秘義務の確認など常に話し合っ注意している。また、利用者間でも個人の尊厳を損ねることがないように、気持ちをくみとって声かけや対応に配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。 (外部評価) 利用者のペースを大事にしながら、気持ちよく楽しく共同生活を送れるよう支援している。地区内に自宅がある方で風を通しに家に帰りたい時などは、自宅でひと時を過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) これまでの行きつけの理、美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみができるように支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の野菜を取り入れ、盛りつけにも色取りを工夫されている。 (外部評価) 食欲を誘発できるよう、食事作りに参加してもらい、気持ちよく食事できるように席の配置にも配慮している。職員と共に会話を楽しみながら、残すことなく食事をとっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物、おやつなど、好みの物を出している。起床時のヤクルト、牛乳、就寝前のお酒、ホットミルクなど、飲用してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録をチェックし、個人のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。 (外部評価) 現在は利用者全員に入浴拒否がなく、思い思いに楽しみながら入浴している。介助が必要な方も座位を保つことができ、ゆっくりと入浴している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝をしたり、話につき合う等している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意とする能力を発揮できるような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。 (外部評価) 家庭菜園、料理、裁縫、編み物など自由に趣味を楽しんでいる。デイサービスに参加し、片付けなど自分のできることを生きがいのように感じて楽しんでいる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。 買い物の際は本人にお金を持たせ、出来ない部分を支援している。本人、家族の希望があれば、ホームで預かっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。 自宅が近い方や、近所までなら、希望に応じ、自由に外出されている。 (外部評価) すぐ前の小学校グラウンドに散歩に出かけている。スーパーも近くにあるので、買い物に出かけている。町内の高齢者が側の病院へ通院のために頻繁に訪れるため、戸外に出るだけで声をかけることができる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望あれば計画を立てて外出をしている。 手作り弁当を持参し、外で食事をしたり、レストランでの外食の機会も持てるように支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて手紙や電話をしたり出来るように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちの良い声掛け対応をしている。気軽に来やすい雰囲気づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と認識を図っている。身体拘束は行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間は施錠はしていないが、夜間は一人での対応となるため、一時的に施錠せざるおえないこともある。 (外部評価) 玄関はデイサービスと共有しており、誰でも自由に出入りできる。居室はプライベートなエリアであることは承知しているが、鍵をかけることはなくほとんどの方が戸を開放している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間は、利用者と同じ空間で仕事をしており、利用者の状況を把握することが出来ている。夜間は巡視を行い、安全を確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告書を記録し、予防について話し合い、職員間の共有認識を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に消防署による救急法の研修を実施している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、昼夜それぞれを想定した避難訓練を定期的に行っているが、地域との連携を確保するまでには至っていない。	※	自主防災組織とも連携が取れるよう働きかけると共に、近所の住民の協力が得られるようお願いして、地域をまきこんだ避難訓練を実施することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 問題解決の為、出来るだけ早く家族に連絡報告し、対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段と様子が違う時には、バイタルチェックを行い、様子を見ながら状態により受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材を工夫したり、運動を働きかけたり、水分を多く飲用してもらう等している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後声掛けを行い、能力に応じて職員が介助をおこなっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。 (外部評価) 法人医療機関の栄養士に献立を検討してもらっており、適切な栄養摂取ができるよう支援している。食べる量については記録して把握している。水分量についても一人ひとりの必要量が確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 職員、利用者は全員インフルエンザ予防接種を受けている。感染症の勉強は行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は日付をつけて鮮度や状態が分かるようにしている。調理用具は日光消毒や漂白し、清潔を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 広く明るく、プランターには季節の花が咲いている。椅子も置いてあり、ゆっくりできるスペースもある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、生活感、季節感のある物をうまく活用している。 (外部評価) ソファのコーナー、畳のスペース、テーブルなど用途に応じた場を設けており、利用者の好みによってそれぞれの居場所があり、思い思いに過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子があり、利用者同士楽しめるような居場所や環境づくりをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。 (外部評価) 十分な広さがあり、小物入れ、仏壇、家族の写真、テレビ、冷蔵庫、思い出の品などを持ち込み、利用者の生活歴がうかがえる居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空気の入換えは常時行っている。利用者の声や様子を見ながら温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の分かる力を見極めて、混乱を最小限におさえられるように対応している		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に花を植えたり、畑に野菜を植えて世話をすることで楽しみながら活動できる場となっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	常時、利用者の意見や要望を聞き入れていると思える。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	午前、午後と一緒にお茶をしたり、作品づくりやおやつ作りを楽しむ時間がある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分のペースを保ちながら生活されている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔やお礼の言葉で感謝される。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外の交通事情や職員の勤務体制により、希望にそえない事がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設に病院があるので安心されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	統一したケアをし、利用者不安のない対応ができています。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家庭の事情を話しながら家族もある為、全ての家族と信頼関係ができていとは言えない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	尋ねて来られる方は、家族や知人である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	グループホームに関心が見られ、入居の問い合わせがある。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々のコミュニケーションがとれており、人間関係がよく、明るく働ける職場である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から感謝の言葉や笑顔が返ってくる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の方に感謝の言葉をかけてもらうことが多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・併設サービスの利用が自由に出来る。
- ・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリが出来る。
- ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 かぐや姫

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 小玉弘美

評価完了日 平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) かぐや姫独自の理念もあり、各階の理念も作りあげている。 (外部評価) 法人としての理念があり、その理念を基に、ユニットごとに具体的な介護目標を掲げている。地域密着型ということに着目し、「在宅とホームのつながりを大切にする」という文言を入れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 勉強会、毎朝の申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図っている。 (外部評価) 日常の様々な場面で常に理念に照らし合わせて行動している。月1回の研修会やユニット会議の際にも理念について話し合いを持っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には入居時に説明をしている。地域の方には広報誌を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物に出かけた時、あいさつを交わしたり、話をしたりしている。なかには花や野菜を届けてもらう人もいる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け、参加してもらっている。 (外部評価) 小中学生との交流や、ホームの納涼祭に地域の方を招いて交流しているが、地域へ溶け込んで地域の一員としての交流は多いとは言えない。	※	自治会などに参加し、地域の回覧板や広報誌を通して情報交換を行うなど、積極的に地域と交流していけるよう工夫を続けることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生の受入を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価結果は今後のケアサービスの質につなげていけるように、全職員で意識統一を図り努力している。 (外部評価) 職員によって取り組みが難しい項目もあるので、考えていきたい項目に分担して取り組み、主任が中心になってまとめている。職員は自己評価することが振り返りと気づきにつながり、ホーム全体のサービスの質の向上になると考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。 (外部評価) メンバーは利用者や家族、ホームの関係者がほとんどで、外部からの参加は少ないが、利用者自身の声を聞くことができ改善に役立っている。内容については、ホームの行事予定や生活状況の報告が多い。	※	地域に密着した生活を送ることの大切さを考慮し、地域で様々な活動を担っている自治会長、民生委員、ボランティア団体の方などを会議のメンバーに加えるなどして、意見・情報を交換していく等の工夫を期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターとの情報交換は行っている。今後、共同関係ができるように担当者と会う機会を増やしていきたい。 (外部評価) 市担当者とは顔馴染みの関係をつくっている。また、介護相談員の訪問を受けており、連携して常にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすく表現に心掛けている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 併設のデイや居宅の職員に相談されている場合もあり、出た意見は日々のケアに生かしている。介護相談員(年3回程度)が相談にのってもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的な報告をしている。電話や手紙や、面会に来られた時にも報告している。 <hr/> (外部評価) ホームでの暮らしぶりは、季刊のホーム便りで知らせている。介護計画の見直し時や来訪時には健康状態などを伝えるようにしている。	※	利用者一人ひとりの暮らしぶり、健康状態などに加えて、出入りの多少にかかわらず金銭管理状況を毎月の経費請求時等に報告しておくことが望まれる。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見は話し合いを持ち反映させている。 <hr/> (外部評価) 来訪時や運営推進会議を通して家族の意見を取り上げ、改善につなげるようにしているが、外部の相談窓口等は明示されていない。	※	家族が苦情相談等を伝えやすいよう、ホーム内の窓口として具体的に氏名などを明示するとともに、外部の相談窓口についても電話番号等の連絡先を含めて明示し、説明しておくことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者は状況に応じた対応ができるように通常のシフトには入ってない。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職は少なく、移動はよく検討した上で行っている。馴染みの職員によるケアを心掛けている。 (外部評価) 認知症の方にとって、馴染みの関係づくりが大切でありまた難しいことも十分承知しており、異動や離職者は最小限に抑えられている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設外研修に参加している。できるだけ多くの職員が受講できるようにしている。 (外部評価) 研修会の情報を回覧して周知し、希望に合わせてシフトを組むなど積極的に研修受講を支援している。受講した内容については、月1回の内部研修会で報告し、職員全体で共有できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 西予市グループホーム連絡会、南予グループホーム連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 県、南予地区、市グループホーム連絡会等の研修会に参加している。グループ内での交流実習もしているが、職員が直接同業者と交流する機会はない。	※	地区内の同業者でネットワークをつくり、管理者の交流だけでなく職員も積極的に交流を深め、互いにケアの質の向上につなげていく工夫が求められる。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するように努めている。月1回、又は必要に応じ職員代表との合同会議を実施している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員個々の情報を把握し、向上心を持って働けるような職場作りに努めている。業務とは別に委員会を設定。目的別の活動を行い、向上心を育てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接等の状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受けとめようと努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に見学にきてもらう事から始める。生活の様子を見てもらったり、併設のデイサービスも生かしている。 (外部評価) 見学してもらってホームの雰囲気に馴染んでもらったり、併設しているデイサービスを利用しながら入居につないたり、自宅を訪問して生活ぶりや生活歴等を知ることによって利用者の気持ちに寄り添う工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多くもち、声掛けに配慮している。 (外部評価) 農作業、家事など日々の生活の中で教えてもらうことがたくさんある。一生懸命働いて歳を重ねてきた中から生まれてくる心づかいにふれ、気持ちを支えられることがある。車いすの移動を手伝うなど、利用者同士の支えあいも見られる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族、本人の思いを見極め、外出、外泊で家族と一緒に過ごす時間がとれるように努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りなど、継続した支援を行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 声掛けしたり、職員が間に入りながら、うまく関係が築けるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院の場合は、続けて様子伺いに行っている。他の施設に行かれた方には、時々、顔を見に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族の協力を得ている。 (外部評価) 入居時のアセスメントや、日々の生活の中で利用者の思いや意向を把握している。	※	個々の職員が日々の生活の中で感じ取っている様々な気づきを記録して積み重ね、職員全員が共有できる仕組みをつくることが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常生活の中で、これまでの暮らしを知る事ができる。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できる事、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。 (外部評価) 介護計画は担当職員とユニットリーダーが中心になって作成し、ユニット会議で他の職員の気づきを加え、家族にも意見を聞いて、確認してもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態変化に合わせて、サービスの見直しを行っている。 (外部評価) 1か月ごとに支援記録を作成しながら、3か月、6か月と期間に応じて見直しをしている。変更時には申し送りノートで職員に伝えている。	※	利用者の介護記録（日誌）や申し送りノートに、職員が思い思いに記録しているが、職員全員が介護計画を意識して、具体的に毎日の生活の中で評価できるような記録の仕方を工夫することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) デイサービスの利用、併設されている病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。 (外部評価) 医療機関の受診、リハビリテーション等を利用できるよう積極的に支援している。併設しているデイサービスセンターを有効に活用し、自由に参加できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 公民館、図書館等、利用する機会はある。時折、民生委員が様子伺いに来られ、話相手になって頂いている。月1回音楽療法のボランティアが来られ、音楽好きの方が楽しまれている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今までは、必要ななかったが、今後、活用できるようにしていきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今は協働していないが、今後、解決できない問題ができた時には協働し、支援に努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。家族が希望するかかりつけの病院になっている。必要なら、訪問診察に来てもらっている。 (外部評価) 運営法人である医療機関が利用者のかかりつけ医と連携を取り、健康管理に努めている。かかりつけ医を受診する際は日常の状態がわかる記録を持参してホームの職員が通院支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 心療内科受診時に相談にのってもらい、指示、助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職がない為、併設病院の看護師との連携がとれる体制が確保されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、頻繁に見舞いに行き、病院側と情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今のところ、重度者や終末期の方をサービス対象者とはしていない。利用者、家族が安心してサービス利用ができるように、日頃の健康管理や急変時の対応ができるように話し合っている。 (外部評価) 看取りに関する指針をつくり、家族には医師である法人代表が説明している。現在対象者はいないが、必要時にはパート職員や看護師の勤務体制の補充、確保などの話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 併設病院との医療連携体制は整っている。今後、重度化や終末期に向けた支援について検討、準備をする考えはある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 話し合いを十分に持ち、本人の不安を取り除くように努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声の掛け方等、配慮した対応ができるようにしている。 (外部評価) 記録の保管、職員の守秘義務の確認など常に話し合っ注意している。また、利用者間でも個人の尊厳を損ねることがないように、気持ちをくみとって声かけや対応に配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。 (外部評価) 利用者のペースを大事にしながら、気持ちよく楽しく共同生活を送れるよう支援している。地区内に自宅がある方で風を通しに家に帰りたい時などは、自宅でひと時を過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) これまでの行きつけの理、美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみができるように支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の野菜を取り入れ、盛りつけにも色取りを工夫されている。 (外部評価) 食欲を誘発できるよう、食事作りに参加してもらい、気持ちよく食事できるように席の配置にも配慮している。職員と共に会話を楽しみながら、残すことなく食事をとっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物、おやつなど、好みの物を出している。起床時のヤクルト、牛乳、就寝前のお酒、ホットミルクなど、飲用してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録をチェックし、個人のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。 (外部評価) 現在は利用者全員に入浴拒否がなく、思い思いに楽しみながら入浴している。介助が必要な方も座位を保つことができ、ゆっくりと入浴している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝をしたり、話につき合う等している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意とする能力を発揮できるような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。 (外部評価) 家庭菜園、料理、裁縫、編み物など自由に趣味を楽しんでいる。デイサービスに参加し、片付けなど自分のできることを生きがいのように感じて楽しんでいる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。 買い物の際は本人にお金を持たせ、出来ない部分を支援している。本人、家族の希望があれば、ホームで預かっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。 自宅が近い方や、近所までなら、希望に応じ、自由に外出されている。 (外部評価) すぐ前の小学校グラウンドに散歩に出かけている。スーパーも近くにあるので、買い物に出かけている。町内の高齢者が側の病院へ通院のために頻繁に訪れるため、戸外に出るだけで声をかけることができる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望あれば計画を立てて外出をしている。 手作り弁当を持参し、外で食事をしたり、レストランでの外食の機会も持てるように支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて手紙や電話をしたり出来るように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちの良い声掛け対応をしている。気軽に来やすい雰囲気づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と認識を図っている。身体拘束は行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間は施錠はしていないが、夜間は一人での対応となるため、一時的に施錠せざるおえないこともある。 (外部評価) 玄関はデイサービスと共有しており、誰でも自由に出入りできる。居室はプライベートなエリアであることは承知しているが、鍵をかけることはなくほとんどの方が戸を開放している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間は、利用者と同じ空間で仕事をしており、利用者の状況を把握することが出来ている。夜間は巡視を行い、安全を確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告書を記録し、予防について話し合い、職員間の共有認識を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に消防署による救急法の研修を実施している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、昼夜それぞれを想定した避難訓練を定期的に行っているが、地域との連携を確保するまでには至っていない。	※	自主防災組織とも連携が取れるよう働きかけると共に、近所の住民の協力が得られるようお願いして、地域をまきこんだ避難訓練を実施することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 問題解決の為、出来るだけ早く家族に連絡報告し、対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段と様子が違う時には、バイタルチェックを行い、様子を見ながら状態により受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材を工夫したり、運動を働きかけたり、水分を多く飲用してもらう等している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後声掛けを行い、能力に応じて職員が介助をおこなっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。 (外部評価) 法人医療機関の栄養士に献立を検討してもらっており、適切な栄養摂取ができるよう支援している。食べる量については記録して把握している。水分量についても一人ひとりの必要量が確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 職員、利用者は全員インフルエンザ予防接種を受けている。感染症の勉強は行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は日付をつけて鮮度や状態が分かるようにしている。調理用具は日光消毒や漂白し、清潔を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 広く明るく、プランターには季節の花が咲いている。椅子も置いてあり、ゆっくりできるスペースもある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、生活感、季節感のある物をうまく活用している。 (外部評価) ソファのコーナー、畳のスペース、テーブルなど用途に応じた場を設けており、利用者の好みによってそれぞれの居場所があり、思い思いに過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子があり、利用者同士楽しめるような居場所や環境づくりをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。 (外部評価) 十分な広さがあり、小物入れ、仏壇、家族の写真、テレビ、冷蔵庫、思い出の品などを持ち込み、利用者の生活歴がうかがえる居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空気の入れ換えは常時行っている。利用者の声や様子を見ながら温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の分かる力を見極めて、混乱を最小限におさえられるように対応している		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に花を植えたり、畑に野菜を植えて世話をすることで楽しみながら活動できる場となっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	常時、利用者の意見や要望を聞き入れていると思える。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	午前、午後と一緒にとお茶をしたり、作品づくりやおやつ作りを楽しむ時間がある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分のペースを保ちながら生活されている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔やお礼の言葉で感謝される。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外の交通事情や職員の勤務体制により、希望にそえない事がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設に病院があるので安心されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	統一したケアをし、利用者不安のない対応ができています。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家庭の事情を話しながら家族もある為、全ての家族と信頼関係ができていとは言えない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	尋ねて来られる方は、家族や知人である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	グループホームに関心が見られ、入居の問い合わせがある。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々のコミュニケーションがとれており、人間関係がよく、明るく働ける職場である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から感謝の言葉や笑顔が返ってくる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の方に感謝の言葉をかけてもらうことが多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・併設サービスの利用が自由に出来る。
- ・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリが出来る。
- ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。